ぬことゝ思ふのであります」

次は只今、局長より御話になりました

軍需工業動員法

を適用する法律の如きも、吾々は法律のみに依存して仕事をして行かうと思つては居らぬのでありまして、本當に事業家も勞働者も、各の階級が打つて一丸となつて自主的、積極的に、日本人の最も世界に誇るべき一つの義俠的と申しますが、武士的氣魄に依つて事に當つて行かねばならぬと思ふ、決して法律を楯に取つて形式的なことをやらうと云ふことは夢にも私共は考へない、何うか皆さんも矢張り武士的氣魄――即ち時局に際し進んで軍需品の生産を引受けると云ふ氣持を以て行かれたい。けふは閣議で工場管理令、即ち軍需工業動員法に關する勅令が通りましたから明日あたり官報に出るだらうと思ひます。是は主務大臣――軍に關しては陸海軍大臣ですが、是が管理することになつて居ります。工場管理と云ふと歐洲諸國に於ける例を見てゐる人は何か陸海軍の者が乘り込んで行つて無闇矢鱈に掻き廻はすのではないかと云ふやうに考へるやうですが、是は全く杞憂でありまして前に申上げましたやうに、日本人特有の武士的氣魄で進むと云ふことにあるので、決して歐洲大戰に於ける外國で行つたやうな意味合ひのものでなく、從て管理令に依り

工場の管理

をすることに就いては私共も愼重な態度を執つて行きたいと思つてゐるのであります。此の管理と云ふのは何う云ふことをやるのかと云ひますと、陸海軍大臣が各工場に軍需品の生産を命ずる、つまり何日までに是だけの物を造れと斯う云ふことを命ずる。是が眼目であつて其の工場の内部の經營に至つては多年深い經驗をもつて居らるゝ事業主或は工場主に對して全權が委せられたもので、勿論其の經營の内部に干與すべき筋合のものでは斷じてないのであります。故に工場主は充分な智能を發揮して能く計り能く斷じて工場内の經營は元の通りにやつて頂きたい。さうして吾々の注文する所の物が思ふやうに出來ると云ふ風にやつて頂きたいと云ふだけのもので決して管理と云つても工場の中に入つて内部經營に干與するとか、或は會計に攜はると云ふやうなことをするものでないのでありますから、此の點はよく御承知置きを願ひたいと思ひます。それで管理を致すとしても左樣な次第でありますから管理官は充分に人選を致し、さうして成るべく工場事業場の運營に妨げをなす障碍を排除するやうに援助を與へる方法を取りたい。例へば原料にしても、職工の問題にしても、是等に對する障碍を排除する如く工場主を支援すると云ふやうな態度を持ちつゝ協力して行かなければならぬと考へてゐるのであります。

次に工場に於ける

注文の殺到の場合

であります。是は恐らく皆さんから異口同音に出る質問ではないかと思ふが、陸海軍の注文を何う處置したら宜いかと云ふ問題であります。又現業官廳たる鐵道省等と初め、或は有力なるお得意の注文が殺到しても能力には限りがある、其の場合何れを先にするか皆んなの注文に應ずると云ふことになると十力を分散して仕事をしなければならぬ。仍で能率が上らないことになる。此の點は如何にすべきかと云ふやうなことは戰時には何處の國でも起つて居る問題であります。日本でもさう云ふやうなことが現に起りつゝあるのであります。是等を程よく整調して掛らねばならぬ。この點に關しては我が國の總動員の原則は軍需品の生産が優先と云ふことになつて居るのであります。目の前に於て戰爭しつゝある軍隊に軍需品を供給することを第一とせねばならぬ。是は實に明瞭なる道理であります、是の點については資源局、陸海軍共に十分善處し得る用意がありますから注文殺到を至當に整調する處置を採り得るのであります。

次は

應召兵並びに其遺家族

に對しましては、ひと方ならぬ配慮を蒙つて居る。是は特に感謝の意を表したいと思ひます。戰場に行つて居る兵士は何等私事の心は無い、唯生死を同じうする、其の任務に向つて一死國に報いると云ふだけで何等の慾もなければ命も要らない。唯、心殘りがあるとしますれば後に殘つてゐる自分の子供やら、家内やら、老いた母のことが常に彼等の心に殘るであらうと思ふ。戰地に行つた者で恐らく家族のない者はありますまい、從て其の家族に對する扶助は國家として誠に大切なる事であります。出征軍人に對して報いるには別な方法があります、出征兵士に金を送る必要は毫ないのであります。また云ふことになれば弊害が起つて來る。宜しく出征軍人に對しては國家最高の名譽、國民最大の感謝及之に伴ふ褒賞等を以て酬ゆべきであつて、物質的補償の觀念はよくないと思ふ。然し後方に居る出征軍人の家族に對しては國家としても充分なる扶助の方法を講ぜねばならぬと考へる。歐洲大戰に於きまして、フランスの如き社會主義の國に於ては此のために大變な力を注いだものであります、大戰第三年目あたりには三百五十萬人位の家族に對し扶助を行つて居ります。日本はそんな外國の眞似をするにも及ばぬであらうが、兎に角、出征軍人の家族に對して相當な扶助を行ふことは實に大事なことであらうと思ふ。其の第一の現はれとして皆様の所から出てゐる所の出征軍人に對して依然として給料を支給すると云ふ措置は非常に溫情のあるさうして自主的であると云ふ所に殊に貴いものがあると思ふ。是が若し戰爭が長引くことになれば何等か是に對する施策が講ぜられなければならぬのでありまして、是等に就ても考へられねばならぬ問題があらうと思ひますが、兎も角今の所、應召の兵士に對して溫情ある措置をやつて居られると云ふことは實に有力なる銃後の後援であり又眞の意味に於ける勞資一體の具體化でありまして深く感謝する所であります。

最後に皆様が事業をなさる上に於て、今はいろ〳〵忙しくて注文が殺到するが

戰後の經營問題、

譬へば戰爭が終つたら注文バッタリ止まつて了ひはせぬか、勞働强制は宜いが二交代制を採つて人を殖やした場合この關係は何うなるかと云ふことは事業家としては何れも考へられることゝ思ひますが、是に就きましては前に申上げましたやうに今回の戰爭がさう簡單に片附くものでなく、また爲す所を一歩誤れば他の外敵が我れに向つて出て來るかも知れぬ事を覺悟しなければならぬ。而も之を排除して進む所に日本の赫々たる建設的偉業があるのでありまして、例へば此の戰爭が若し有利に解決され、さうして日本の主張する所の、また日本の多年冀ふて居りました所の東亞安定の礎石が築かれまするならば日本の國力は更に今迄よりも數倍躍進すべき運命にある。またさうさせなければならぬのであります。さうなれば是に依つて産業が平時の狀態になつて注文がバッタリ止まつて了ふと云ふやうなことは今日考へられる筈がないと思ふ。事變の起る前に考へて居られました所の所謂産業五ヶ年計畫――日本の産業は今後の五ヶ年間に三倍にも四倍にも殖え、鐵でも、機械でも、化學工業でも、すべて其の目標に向つて進んで行かねばならぬ。さうして是に要する人をどし〳〵養成しなければならぬ。熟練工でも技術者でも夫れ夫れ殖やして行かねばならぬ、原料は滿洲からでも、何處からでも日本の勢力範圍から求め之を製品として外國に出さねばならぬ、と云ふやうな心構へで政府は進んで居る、其の途中に於て今次の事變が起りました、是は幸か不幸か、兎に角、この戰爭に直面して事實上産業上に於て部分的には相當打擊はあるが、全面的には機械工業、化學工業炭礦業、電氣事業、瓦斯事業等殆んど今日お集りの方々に關係の總ての事業は今日非常なる勢ひを以て進展しつゝある。此の狀況を捉へて之を戰後の擴充に其の儘持つて來て戰捷の結果を光輝あらしむるやうに利用せなければならぬ、さう云ふ心構へが最も今日必要であらうと思ふ。でありますから、決して取越苦勞、或は悲觀的な消極的な考へと云ふものはあつてはならないものであります。一番冐頭に申上げましたやうに所謂積極的に事に當り先手を打つて進んで行く氣構へがあつてこそ初めて事業報國が出來るのであらうと考へます。この點は充分御考へになつて相互に協力して進まねばならぬ次第であります。是で私のお話は止めやうと思ひます。(五頁下段へつゞく)

それから此處に造兵廠の大島大佐と兵器本廠の大木大佐がお見えになつて居られます。是から皆樣と色々御折衝があると思ひますが、どうぞ色々御相談の上御協力願ひます。もう一つ最後にくれぐれもお願したい事は、勞働者を愛護し、勞働力を何時までも持久させる樣、特に御配慮御工夫をして戴きたいと云ふ事であります。些か釋迦に說法の感がありますが、此の方面に蹉跌が起こると云ふ事は非常に憂慮すべき事だと思ふのであります。幸に協調會に於かれましては、事業主、勞働者側の中間に立たれて色々御心配下さる事と思ひます。甚だ雜駁なお話でありましたが之で終はります。

時局打開私見

企畫廳調査官　栗原美能

北支に南支に、今や我等が父子兄弟は忠誠勇武なる皇軍の本領を發揮して、盛に暴虐無道の支那を膺懲してゐる。時正に日露の役を過ぐる三十有餘年、皇國日本飛躍の秋が再び茲にめぐり來つたのである。日本人たる者、誰か人生の意氣と、斯かる時節に生れ會したることの幸福を思はぬ者があらうか。

見よ今や敵國首都は、精鋭無比の皇軍鳳凰の翼下にやせ我慢の强がりを叫びつゝ、實は無辜の良民幾萬が悲慘なる災禍に泣いてゐるではないか。然るに我が首都は如何であるか。お互に朝に夕に、叫ぶラヂオ、呼ぶ號外、映るトーキーに、同胞奮戰のおもかげを偲んで、相濟まないと思ひつゝも、未だ以て悠々閑々たる姿で漫歩が出來るのではないか。誰か　一天萬乘の大君の御稜威を、日本人として生れ來りたる事の感激を新にせずにゐられようか。

○　○

正義の戰はまだ序幕のおりたばかりである。地上のありとしあらゆるものを、さながらに生かして、天壤無窮の皇運の完成を計るは、お互日本人の心持では自惚れもろともにいと容易の如くでゐて、其の實然かく決して易々たる譯にはゆかぬのである。皇統連綿、一君の下萬民の我等が、夫々其の與へられたる職場に於いて、日本人としての良心に恥ぢざる實踐を累ね重ぬるに非んば、いつかな達成し難き事は、古き昔は問はずもがな、明治開國以來の史實に見て明瞭過ぎる位明瞭であると私は思ふ。

然るに何ぞ、一部には之しきの國難に既に弱音をはき、僞術詐略飽く事を知らざる悪逆虚僞の徒輩の徹底的克服を使命とする日本國民の運命をば忘れはてゝ、己れ一個の安易を重しとし、未だに自己反省を致さず、徒に人を頼り、人を責むるの手輩がなきにしもあらざるが如くである。

○　○

私は此の時局下に乏しきを企畫廳に任を享けて、日夜勞働國策の勘考に自己の不明を詫ぶるの外なき一介の菲才に過ぎないが、深夜ひそかに皇國の歷史を回顧して、今の時代に、日本が世界の日本として、嘗て皇國の理想の實現の第一歩を踏み出したる此の時機に於いて、我等が新しき運命を開拓すべく、淺學なりとも、如何にせば最も有効適切に此の段楷を打解すべきかの方策を痛念する點に於いては、敢へて人後に墮ちざるものであるが、誠に唯々我が過去の準備の足らざりしこと、勇氣の乏しかりし事、御奉公に缺けたることどものみ思ひ出られて芝居がゝりではないが切々恥ぢ入るばかりである。

私はまだ〳〵檢討も足りないし、思索も淺い。故に決して大聲叱呼するの資格ありとは自分更々思はない。けれども、今の自らの全力を傾け盡して、斯くも考へて進んだならば消々立派な國策が次々に出來上るのではないかと思ふ私自身の感想を茲に提唱し、大方の御叱正と御批判を得度いと思ふのである。

○　○

私の考ふる處では、誰が何と云つても、我が日本國の資源は、大君の慈愛溢るゝ御仁政の下に、大御寶として彌益しに增すお互赤子ではないかと信ずる。物の不足は人の努力に依つてのみ獲得の大道が開ける。物的資源の惠みに於いて、諸外國に比し遙かに安心のならない國情こそ、今や我々が打ち連れて打解せねばならぬ秋ではあるまいか。皇國の理想の實現の方策を少しでも有力ならしむる爲に。

即はち、軍人のみに右の苦鬪を委してゐる譯には無らない。資本家は資本の活用を天職とする其の立場に於いて、勤勞者は、勤勞御奉公を天職とする其の立場に於いて、而して最も肝要なるは官吏が其の公平無私滅私奉公を使命とする其の立場を確守して、一連托生、自己の赤誠もて一刻も速かに御宸襟を安んじ奉る爲の苦心を重ねなければならぬのだと思ふ。

○　○

斯くの如くして、私は、勞働國策樹立の大任に當る私の職責を守り終せ度いばかりに聊か時難打解の實踐綱領として日頃念頭にある二三の事共をば言葉足らずではあり、且生硬ではあらうが、左の如く叫ばずにはをれないのである。

第一、資本家こそは先づ自己の事業經營に於いて、勞働者が安んじ且心に光明を抱いて働ける樣にしてやつてゐるかどうかを反省すべき事、―目標は皆が皆永く勤勞を樂しみつゝ御奉公出來るか否かについて―

第二、若し右の事に少しでも缺けてゐると覺つたならば、其の修正の爲に、日露の戰後部下の遺族を親しく見舞ふ爲に行脚せずにはをられなかつた乃木將軍の實踐を回顧して、産業戰線の陣頭に長たる者として立ちつゝ、其の執るべき責任は、些少の事端たりとも敢然之を取つて以て今日唯今より實踐すること。―特に勞働時間、休日、生活の程度態樣について考ふるが重要である。

第三、官吏は最も私心を絕して御奉公の責に任ぜねばならぬものなるが故に、他人の事を問ふ前に我身自ら敢然として大義の前に日夜峻嚴なる反省を加へて、勞働の尊重すべきを切々實感すべく、現實の社會の世相を見巡はるべき事。

第四、依つて得たる體驗を基礎として、あらゆる不義、不正、をば一掃する爲、十全の方策を済々樹立してゆくこと。

第五、純乎とし醇なる日本人たる本質を最も實踐的に把握してゐる勤勞者之こそは、默々たる今日此の頃のいどなみに、自負を持ち兄弟姉妹相攜へて益々相はげみ、其の眞心のほとばしる實踐の間に起るでもあらう不平不滿は、事細大となく率直に先づ上役、それから其の筋々の官憲にと切々訴ふべきこと。此の點が缺くる處に現代政治の一切の過誤が生れる。

第六、右の訴へを聽きたる上役官憲は、事細大となく上記各項に遵つて判斷し、決斷のつく限り自己の責任に於いて之を斷行し、若し決斷つかざる時は、直ちに之を上司に報告すること。

あらまし上記の如き實踐綱領を標準として私は之から先も駑馬に鞭うつて、諸方策は先づ之を筆硯にとる前に夫々實踐に移して行き度いと思ふ。終りに再び切に大方の御教示を乞ふ次第である。

※　※